

「二宮町役場庁舎」の検討について

- 熊本地震の発生により、本町の6月議会で役場庁舎などの安全性について、一般質問が提出されました。
- 二宮町役場庁舎は、昭和53年6月30日の竣工から38年が経過していますが、現在まで耐震化のための改修工事を実施していません。
- 災害発生時には、役場庁舎に災害対策本部を設置し、被災・避難状況等の情報集約や総合調整・指示を行うこと、また、復興に向け役場業務を迅速に開始できることなどが求められます。
- そのため、役場庁舎の耐震改修などについて、万が一に備えた早急な対処方法の決定が求められるため、本検討委員会で策定する「実施計画」とは別に、庁舎の維持管理を担当する財務課を中心にスケジュールなどを先行して検討していくこととなります。
- 本検討委員会では、町全体の施設数の縮減、施設機能の効率化の観点から、役場庁舎の将来のあり方について検討し、先行する検討との調整・整合を図っていきます。

1. 役場庁舎の概要

- 延床面積: 3,207.09㎡
- 構造: 鉄筋コンクリート造 地上3階地下1階建
- 竣工: 昭和53年6月30日

2. 役場庁舎の現状

- 耐震基準が見直された昭和56年以前に建築された建物
- 平成8年度に実施した耐震診断の結果で耐震性能が低いことが明確となる
- 多くの機器設備類が老朽化している



3. 耐震性について

●耐震基準

- 昭和56年5月以前は旧耐震基準(震度5程度)
- 昭和56年6月以降は新耐震基準(震度7程度)

●Is値(耐震指標値)

- 国の基準ではIs値 \geq Iso値とならなければならない。
- 国基準値: Iso値=0.6

※Iso値(構造耐震判断指標値)・・・

耐震性能を判定する指標Is(構造耐震指標)と比較する値であり、さらに強度設計の際の目標値となる。

Is \geq Isoであれば「安全(想定される地震の震動及び衝撃に対して所要の耐震性を確保している)」となる。

3. 耐震性について

※Iso値(構造耐震判断指標値)・・・

耐震性能を判定する指標 I_s (構造耐震指標)と比較する値であり、さらに強度設計の際の目標値となる。

$I_s \geq I_{so}$ であれば「安全(想定される地震の震動及び衝撃に対して所要の耐震性を確保している)」となる。

※ I_s 値・・・

建築物の耐震性能を表す指標。その値が大きいほど耐震性能が高い。

I_s 値の評価

I_s 値0.3未満 : 耐震性が著しく低い ... 建物崩壊 ~ 大破

I_s 値0.3以上0.6未満 : 耐震性が低い ... 中破 ~ 小破

I_s 値0.6以上0.94未満 : 耐震性が高い ... 軽微

I_s 値0.94以上 : 耐震性が特に高い ... ほとんど損傷なし ~ 無被害

4. 役場庁舎の耐震結果

※平成8年度の結果

施設	X方向(南北)	Y方向(東西)
	Is	Is
3階	0.998	0.982
2階	0.640	0.483
1階	0.529	0.499

5. 役場庁舎の耐震化・設備等更新費用(概算)

工事手法		概算費用
移転新築		18.3億円
既存建替		21.3億円
耐震補強	Is : 0.94	13.4億円
	Is : 0.75	13.0億円
	Is : 0.60	12.5億円

※平成26年度に実施した「庁舎・設備等評価委託」による
※概算費用については、設備改修や付帯して発生する工事費等を含む